



共同通信



2011年1月25日 173(383号)

日本基督教団 西宮公会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 73 「自己紹介」

昨年のクリスマスに公会教会に転入会しました前田知子です。私は、子どもの頃から読書が大好きでした。(あまり難しい本は読みませんが) エッセイですとさくらももこのファンです。小説なら三浦綾子、遠藤周作などが好きで、気に入った同じ作品を繰り返し読む方です。マンガはけらえいこの「あたしんち」が好きで、他にも新聞朝刊連載の「ののちゃん」や「おチビさん」は欠かさず読みます。去年は「ゲゲゲの女房」原作本が良かったです。公会教会で話題になることがあった宮沢賢治は「銀河鉄道の夜」と「よだかの星」もあらためて読みました。

もう20年ほど前のことですが、洗礼を受ける前後、私は大阪の千里に住んでおり、母が近くの教会へ通うクリスチャンでしたので、私もたまに教会学校へ行ってお話を聞いていました。教会学校の先生に勧められ読んで印象に残っている本は三浦綾子の「道ありき」と「この土の器をも」。ボロボロになっても読んでいました。

高校卒業後、なぜか縁あって私にはしきたる界隈に登場します。津門川沿いの栄養専門学校に入学しましたが、視線恐怖症でナント3日で休学することになりました。それから2年間、家に戻っておりましたが将来へ

時代にふり回されるのではない
あの時 心を躍らせて生きた
後悔に 身をふるわせたこともある
笑い 泣き 歯ぎしりをした
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい

の不安から、教会へ真面目に通うことにし、半年後の1990年のクリスマスに千里の教会で受洗しました。

その頃、主人は青木町にある「たけなか」という居酒屋さんで、会社勤めの後、深夜までアルバイトをしていたそうです。主人が関学の学生時代、なにかと影響を受けていたR先生の関係だったそうです。当時の「たけなか」には菅澤先生や公会教会の方もいらしていてもしかしたら接点があったかもしれないようです。そこでのアルバイトの話は結婚してから何回も聞いていて、いまでもなんとか料理らしいものを作るのもそのお陰だとか。(私が具合が悪くなって寝込んだ時には晩ご飯作ってくれます)

その後、私の方は一度学校に復学しましたが、結局一年で中退しました。本格的に体調をくずしましたので、療養しつつ、所属教会の他にも、さまざまな教派教会の集会や礼拝に参加させていただいていました。又、自分なりにキリスト教関係の本を読んだりもしていました。そんなこなしているうちに2003年に主人と結

婚しました。主人はとても温かい人柄で私が悩んでいると適確にアドバイスをしてくれたり読みたい本をさがしてくれたりします。遠くの集会等にも「付き添って」くれます。前の教会に行きにくくなって、それでも礼拝をささげたい気持ちを打ち明けると、「公会教会しかないかなあ(---;;)」と背中を押してくれました。そして、休み休みなんとか一年通った結果、転入会を決意したのです。

さて、いつも私の隣におりますが主人の前田充彦です。主人の趣味はアマチュア無線です。今となっては古典的な趣味ですが、阪神・淡路大震災をきっかけに、「事業者に頼らない通信手段の確保」を考えて始めたらしいです。今では当初の目的とはあんまり関係なく、その世界の友達なども作って結構楽しんでやっております。(実はナント彼はぬいぐるみ好きでもあります。枕の横にかわいいクマちゃん2匹を置いて寝ています!!)

これからも夫婦共々宜しくお願い致しますm(__)m。

(前田 知子)

ヒトの進化でもっとも重要だったのがイモか肉かの決着はついていないが、時間的どちらか先かはさておき双方ともに重要であったのだろう。しかしここで述べたいのは肉こそは根柢こそヒトにとって得るのが困難でありヒトがそのような食物ニッチに進出するには社会生活を劇的に変えねば不可能であったということだ。他者と協力することによってみなが恩恵を得る協力的知能の進化は、困難な食物獲得に対する一つの適応であったと言えるかもしれない。

(「ヒトの食物と人間性の進化」長谷川真理子)

麦(小麦、大麦)が、そのまま食べるより、粉をこねて焼くと、おいしくて更に長く保存できることが解って、パンが重宝されることになりました。旧約聖書にはパンと水とが、人が生きる為に最低必要なものであったことが書かれています。「そこでアブラハムは明くる朝はやく起きて、パンと水の革袋を取り、ハガルに与えて、肩に負わせ、その子を連れて去らせた」(創世記 21 章 14 節)。そうなった家庭の事情のことはともかく、親子 2 人が荒れ地で生きのびる為の最低の条件がパンと水だったのです。「あなたがたの神、主に仕えなければならぬ。そうすれば、わたしはあなたがたのパンと水を祝し、あなたがたの病いを除き去るであろう」(出エジプト記 23 章 25 節)。古代社会の人たちは、パンと水は、それによって生存と健康が維持されることは、ただあたりまえだとは考えませんでした。生存に最低限必要なものがパン(と水)でしたが、古代社会の人たちは、“おいしく”食べることも忘れませんでした

した。パンの相手がぶどう酒だったり、レンズ豆(のあつもの、煮物)だったりしました。より、おいしく食べる為の工夫です。

アブラハムの子イサク、イサクの二人の息子、エサウとヤコブが“長子の権”を争った時、パンにそえられる“美味しい”食べ物が条件ともなり、かつ災いにもなりました。「わたし(イサク)は年老いて、いつ死ぬかも知れない。それであなた(エサウ)の武器、弓矢をとって野に出かけ、わたしのために、しかの肉をとってきて、わたしの好きなおいしい食べ物を作り、持ってきて食べさせよ。わたしは死ぬ前にあなたを祝福しよう」(創世記 27 章 2 ~ 4 節)。長子の権の争いは、謀略によって、一旦はヤコブのものとなりますが、その時のイサクの食卓には、パンとしか肉料理(実はヤギ肉料理)と、ぶどう酒が並んでいました。生存に最低限必要なパンと水ではなく、少なからず美味しく食べるという欲望が、長子の権を争う人の営みにならざるを得なかったのかも

知れません。この時代のパンの為の麦は、特に大麦と特定されない限り、麦・小麦が使われたようです。麦を収穫し、粉にして焼かれたパンは、酵母（種）を使って焼きあげたパンと、酵母を使わないパン、種入れぬパンの2種類が焼かれていました。酵母を使わない、種入れぬパン・余分な手を加えないパンは、主として宗教的な儀式の為に焼かれました。「正月の14日の夕は主の過越の祭である。またその月15日は主の種入れぬパンの祭である。あなたがたは7日の間は種入れぬパンを食べなければならない」（レビ記23章5、6節）。

こうして見ると、麦を栽培して収穫し、粉をこねて焼いて食べるパンは、旧約聖書の時代の人たちの身近で、そして当たり前の生活の営みだったのです。「起きてみると、頭のそばに、焼け石の上で焼いたパン一個と、一びんの水があった」（列王記上19章6節）。古代社会でも、パンはそのまま食べるだけでなく、加工されることもありました。「また主の前にある種入れぬパンのかごの中から、パン一個と、油菓子一個と、せんべい一個とを取り・・・」（出エジプト記29章23節）「そしてすべての民、イスラエルの全民衆に、男にも女にも、おのおのパンの菓子一個、肉一切れ、ほしぶどう一かたまりを分け与えた・・・」（サムエル記下6章19節）など。

こうして、旧約聖書に書かれているパンは、宗教儀式に使われる場合もありますが、多くは人が生きる為に食べるパンのことで（宗教儀式の場合は、供えられた後のお下がりも食用になりました）。命の糧であるパンは、箴言などでは人が生きることの比喩として登場します。「また、知恵のない者に言う、『来て、わたしのパンを食べ、わたしの混ぜ合わせた酒をのみ、思慮のないわざを捨てて命を得、悟りの道を歩め』と」（9章4～6節）。

新約聖書で、直接パンが話題になるのはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネなどの福音書と使徒行伝です。イエスが弟子たちと行動を共にしたり、たくさんの人を前に教えている時に、食べるパンの用意がなかった時、イエスの奇跡でそれが実現する、などの場合もあります。いずれにせよ、イエスの時代の人でもパンと水で生きていました。ただし、ヨハネによる福音書では、パンのことを「神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」と書いたりする時に、パンで象徴されているのはイエスであると考えられます。使徒行伝では「パンをさき」という場面のことが繰り返し書かれています。「一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた」（2章42節）「家ではパンをさき、よろこびと、まごころとを

もって、食事を共にし」(46節)「週の初めの日に、わたしたちがパンをさくために集まった時・・・」(20章7節)「また上がって行って、パンをさいて食べてから・・・」(11節)「彼はこう言って、パンを取り、みんなの前で神に感謝し、それをさいて食べはじめた。そこで、みんなの者も元気づいて食事をした」(27章35、36節)。描かれているのは、一緒にパンを食べている様子です。

マルコによる福音書14章で、「イエスはパンを取り、祝福してこれをさき」と書かれているパンは、イエス自

身が「これはわたしのからだである」と言って、それに象徴的な意味を与えています。しかし、そこが食卓であり、食卓の食事に供されたパンから外れて、象徴だけの意味に置き換えられている訳ではありません。パンは、食べて生命を維持するパンなのです。

(菅澤 邦明)

“ 過去、今、未来・・・ きみ、わたし、ぼく、わたしたち ”

毎年、暑かった夏の暑さを忘れてしまうこの時期。今年も暑い～と言っていたかと思ったら足早に秋が過ぎ、冬になっていました。冬と言えばやっぱりクリスマス 子どもたちとクリスマスまでの日々をドキドキワクワクしながら過ごした日々を思い出します。自分1人だどこまで楽しむことができなかつたクリスマス。クリスマスって何？そんなことを改めて考えることもなかつたかもしれません。街中の様々なクリスマスを見つけて喜んだりすることもなかつたかもしれません。サンタさんって

本当にいるんだよ！と子どもから教えられたり、子どもたちとサンタさんはどうやって来るのかなぁ～と自分も子どもの頃に戻って、そんな風に考えたりすることもなかつたかもしれませぬ。子どもたちと生活をしていると、こんなにも心が豊かになれるんですね。そんな子どもたちとの3学期がいよいよスタートしました。今年は例年とは違い1月7日に全員集合～で顔合わせ。ここで楽しんだのがみかんの皮アートです！みかんにペンで線を描き、その線の通りにカッターで切れ目を入れる。それ

から、そ~っと皮をむくと・・今年の干支のうさぎが姿を現したのです！決して美しくないうさぎ。。体が細すぎたり、足が太すぎたり。。やっぱりアートなんですよね~ 何度も失敗して試行錯誤を積み重ね、完成に至る。このみかんの皮アートが新聞の記事になっていました。そこで、デザインを考え、本を出版されている方はそう語っておられました。みかんアートを考え始めたきっかけは、むいたみかんの皮がたまたまサソリに見えたことからだそうです。些細なことがこんな風にふくらんでいくんですね~。ひらめきはいつどこあるか分からないということをお教えしてもらいました。

さて、7日に顔合わせをして、11日にもう1度全員集合~！今度はドンドン！！をいう太鼓の音で始まった朝。園長先生、順子先生を始め、教師、補助の先生方も『がんばるぞー！！』と気合を入れてから太鼓をたたき始めました。続いては年長の出番。実際に太鼓をたたくのは年長、しかし、他の学年も足を広げて~腰をおとして~手にはバチを持ったつもり！で太鼓をたたいてるつもり！たたき始める前は『がんばるぞー！！』と気合をいれる。今年も3学期が始まったんだなあ~とこの太鼓の音を聞いて改めて感じる事ができました。

日のことを考える機会を多く与えられました。被災者であった私、幼いながらも大きな恐怖に怯えました。数分間隔で起こる余震、その為かずっと体が揺れているように感じた当時。寝ようとするともた大きな地震がくるのではないかと、眠るのも怖かったことを覚えています。地震直後、一時避難をした小学校で頭から血を流す人、そして、それを必死でタオルで押さえる人、真っ赤になったタオル、その状況を見て大きな衝撃を受けました。今でもはっきりその光景を覚えています。その後、家に戻りましたがそのぐちゃぐちゃな部屋を見て途方に暮れました。電気はすぐに復旧したものの水道、ガスはかなり後でした。トイレの水も流せない、朝起きて顔も洗えない、当然お風呂に入ることもしない毎日。今まで何も考えず過ごしてきた日々、何もかもが普通で当たり前であって、出てきて、存在して・・それが一瞬にして全て失ったんです。そんな生活なんてもちろん、夢にも思っていませんでした。それから16年、17年目を迎えた今年。その頃はただ地震は怖い、たくさんの方が亡くなった、不便な毎日・・そんな風に思っていた当時。それから時が過ぎ、自分も大人になり、その時のことを本当に改めて考える年齢になりました。当たり前って何なのか・・と考えることも。明日ここにいないかもしれない・・そう考え

るのは大袈裟かもしれませんが今を
生き今しかできないことを、悔いの
ない今を生きようと思います。子ど
も達と過ごす日々、これもまた決し
て当たり前ではない日々であって、
小さな命と向き合い、その尊さを噛
み締めなければならぬと思いまし
た。

(水田 有希)

~今月のめり~

神様、2011年1月17日に、私たちは兵庫県南部大地震から16年目を迎えました。

16年前のあの日、御影で被災した祖父母のもとへ、父がザックを背負って向かったときの事を思い出します。あの時、私たちは何があっても、ただ生きてさえいてくれたらいいと願いました。他の何よりも命を求めました。

あれから16年、私たちは、失う人生を否定したり、より多くのものを求めるようになったり、様々な思いを抱きながら必死に生きてきました。

しかし神様、私たちは忘れることなく、これからも生き続けます。今、私たちがここで生きているからです。

笑ったり泣いたり、怒ったりして生活しているこの毎日を愛しく思い、与えられた明日に感謝します。どうか、これからもあなたの御国に召されるその日まで、私たちの歩みを支えて下さい。

(大平 有紀)

すずや便り

あけましておめでとうございます。クリスマス前に仕事も終わり、さらにお正月ですっかり緊張感のない体になってしまったので、運動を兼ねて「与野七福神巡り」に行ってきました。7つのうち場所がはっきりしない寺社が2つありまして、その中の一つ弁財天だけが少し離れたところにあったので、まずはそこから探してみることに。全部回って2時間半ほど、という情報から巡り終わってゆっくりランチ、という計画です。

し・か・し...この弁財天がなかなか見つかりません。住宅地の中なので、大きな木を目ざして行けどもそこは民家、という繰り返し。同じところをぐるぐる迷って、なんとか辿りついてみると最初に曲がった道のたった2本先、この時点ですでに1時間ほどかかってしまいました。

お参りをしていると、なにやらハンコをもらっている人がいます。見てみると、七福神の色紙のそれぞれの神さまのところに押しってもらうシステム。なるほど~これはいい記念になるし!と早速色紙を購入し、次を目ざします。

2番目は家の近所の毘沙門天。ここで立派な地図をゲット!なんだ~最初にここにきておけばよかったね、と境内を見回すと「次は弁財天」との

説明板も。地図と見比べるとどうやら推奨コースの逆に行くことになりそうです。でもここからは北へほぼ直進のコースなので、迷うこともなく布袋尊、大黒天、寿老神と順調にお参りしていきます。

とはいえ、最初のロスタイムが響き長男の「腹減った~」のつぶやきも無視できなくなってきたので、昼食に。私のランチセットについていた生野菜のサラダを「ちょうだい!」とバリバリ食べる長男に、珍しいね、と声をかけたら「最近嫌いな物がなくなった、なんで食べられなかったのか不思議」と!! これはですね、ぜひ園長先生と順子先生に聞いていただきたかった一言です。長男の偏食は伝説になるほど有名で、すずやだより一回分では到底おさまりきらないエピソードの山なのですが、まさかこんな言葉が出るとは。やっぱり年男、12年生きただけのことはあるのかな。母の努力も報われました(涙)。

幸せなランチを終え、福祿寿と恵比寿神にお参りして最後に色紙に日付を入れてもらい、無事に終了です。約5時間の行程となりました。七福神って日本の神さまは恵比寿神だけなのですね。他は中国とインドの神様です。仏教の由来を考えたらそう

なのかも、と新たな発見でした。七福神パワーをもらって、今年も良い年になりますように。

(富家 香麻里)

みかん便り

あけましておめでとうございます。2010年も終わりましたね。20歳になり、成人になったはじめての年。この年は再出発の年。そして戸惑って、不安ばかりの年でした。

・5年間いた今村組を辞め、新しく進んでいこうと決めたこの年、進もうと思っても何に向かっていけばいいのか分からずに春が終わりました。「今まで積み重ねてきた大事なものを全部捨ててしまうような奴が、新しいことを始めて成功するとは思えん。なんでもかんでもゼロから始めてたら、人生、時間が足りんやろ。成功するのは小さなことでも捨てずに全部受け入れていく奴や。」

自分のことを引き留めようとして代表が言ってくれたこの言葉、今でも重く感じます。他人からしたら引きずっているオーラが出まくってるように見えると思いますが、5年間いた場所は、自分の青春時代を全部捧げてきた場所で、今の自分を作るのに大切やった時間やったわけで、引きずるなと言う方が無理です(笑)そんなこんなで引きずりながらもずっ

と考え続けてたんですが、6月が終わり、全てを捨てたわけではないんだと思い始めました。確かに人間関係は切り捨てたわけですし、戻る場所も捨ててしまいましたが、考え方や、礼儀、経験は色んなところで生きていました。乳児院での活動中に不意に組の子供たちとの共通点を見出したり、劇団の公演を見に行った時、パフォーマンスの姿を見て伝える表現方法を感じることができたり、組での経験はふとしたところで出てきます。それが一番生きてきたのが夏のインドへのダンス留学でした。

インドで学んだことは表現の方法。伝えるということと伝わるということはまた別で、言葉だけでは伝わらないこともあれば、言葉がなくても伝わるものがあるんですね。絵を描いたり、音楽を通してみたりというんな方法がありますが、僕の場合、それは踊りでした。ろくに英語も喋れないし、ましてや相手側はヒンディー語ですし、意思の疎通は身体を使うしかありませんでした。踊りで語るというのは楽しさを共有する

こともありますが、踊りの中で色々な表情が出せるということだと思います。楽しい笑顔、疲れた顔、わからなくて不安な顔や、困った顔、驚いた顔。伝わるか分からないような不安な言葉ではこんな表情はお互い出せなかつたろうと思います。相手のいろんな顔を見たからこそ心が許せるようになって、仲良くなれます。仲良くなったインド人は1人だけですが今も連絡を取るようになりました。インドに新しい関係が作れました。

・5年間、今村組で何を伝えたくて踊ってきたのか。ただがむしゃらに踊った。感謝の気持ちを込めて踊った。悔しい気持ちだけで踊った、自分はこんな人間なんだとわかってほしくて踊った時もあった。踊りというのはただの振り付けの発表ではなくて、自分の思ってることを伝える手段なんだと思います。言ってみれば振りはそのままで重要なものではない

のかもしれませんが。大切なのは気持ちです。気持ちが表情になって相手に伝わるんだと気づけたのは5年間の踊りの経験とインド旅行でした。良い夏を過ごせたと思います。

秋、冬は特に何もなかったのですが、2010年は前半で燃え尽きた感がありますね。引きずって下を向いていたところに2010年が始まり、顔をあげて再出発しようと思えることができ年を越しました。目標はまだ定まっていますが、今年は前進しようと思います。2011年が自分にとっていい年でありますように。

(河村 高志)

「にしきた山(里)・川・海塾」

日時：2011年3月6日(日)午後2時～

場所：西宮公会堂集会室

講師：田中 克氏(京都大学名誉教授、(財)国際高等研究所フェロー)

・・・著書：『森里海連環学への道』、『森川海のつながりと河口・沿岸域の生物生産』、『水産の21世紀』、『稚魚学』など多数

テーマ：「森と海をつなぐ街づくり

- 森里海のつながりが地域と日本を元気にする -

教会学校から

《12月の活動報告》

12月5日(日)のびる焼きを食べる

12月12日(日)クリーン大作戦

12月19日(日)

教会学校のクリスマス会

今年も“子ども聖歌隊”が大活躍してくれました。

12月26日(日)、1月2日は冬休み

《2011年1月の活動予定》

1月9日(日)

幼稚園と合同・カルタ大会

1月16日(日)

西宮公同教会兵庫県南部大地震犠牲者追悼の日記念礼拝

幼稚園、教会学校は午前10時45分からの教会の特別礼拝に合流します。

1月23日(日)

準備体操！&けん玉、こま、おてだま冬の遊びを遊ぶ！

1月30日(日)

12 準備体操！&けん玉、こま、おてだま冬の遊びを遊ぶ & 特別おやつ

2010年1月 あんなこと こんなこと...

つとがわ 編集後記

1974年に、西宮市の甲山学園園児2人が、浄化水槽で亡くなったという事件の時の学園長の荒木潔さんが亡くなりました。事件は、保母の山田悦子さんが園児殺害容疑で逮捕されたものの処分保留で釈放、4年後、山田悦子さんが再逮捕、荒木潔園長と保母の多田いう子さんが山田さんのアリバイ証言の偽証で逮捕されることになりました。

7年後の1985年に神戸地裁は無罪判決、検察側が控訴し1990年に大阪高裁は一審判決を破棄、神戸地裁に差し戻し、1998年に2度目の無罪判決、検察側が再控訴、1999年大阪高裁が控訴棄却し、3人の無罪が確定しました。荒木潔さんは2人の園児が亡くなり、保母の山田悦子さんが逮捕され、自分も偽証罪で逮捕されるという事実を引き受けて生きた25年間、無実にはなりませんが何一つ終わった訳ではありませんでした。1999年に裁判は終わったものの、2人の園児が亡くなった重い事実、その後続くことになった裁判の重い事実を引き受け続けて、荒木潔さんは79歳の人生を終えることになりました。

近いところで起こって、身近に付き合うことになったこの事件でしたが、何より問われたのは、そのことへの距離の取り方でした。2人の子どもが亡くなったのは事実ですから、“犯人かもしれない”ということのを完全に拭い去ることはできません。なのに、山田悦子さん、荒木潔さんたちの身近に居続けたのは、何よりもその人柄が、この人たちに寄り添っていいという決断になったように思っています。

(K)

こたつ布団を購入し、こたつ虫をしています。こたつにすると、そこで眠ってしまうかも・・・そこから動けなくなるかも・・・少し迷ったりしていたのですが、温かくて気持ちがよくて、もっと早くこたつにしていれば～と思うほどです。

こたつでみかん、こたつでりんごをしながらすごす休日もいいものです。家に帰るとまずこたつのスイッチを入れる、今日この頃。苦手な冬が、少し苦手でなくなっていたりします。

(I)

毎年、マンションの1階にある郵便受けに年賀状をチェックしに行くのは私の仕事。というよりも、楽しみで早く見たいから行くのですが…。社会人になって年賀状の数はグッと増えました。それまでは表も裏も1枚1枚手書きだったのです

が、今は多いので宛名だけ手書き。裏は3年ほど前に購入した「プリントゴッコ」です。年賀状はメールで済ませる人が増えているみたいですが、1年に1度でも、その人のことを思い、一言添える。そんな時間をこれからも大切にしたいな、と思います

(Y)

晴れの日があったり、雨の日があったり雨の日はちょっぴり外に出るのが億劫になってしまいます。でもそんな日にお気に入りの傘と一緒に出かけたら雨の中を歩くのも楽しくなりそうだなあと思っていました。

ずっと待ち望んでいた傘が私の元に届きました！この傘と一緒に雨の日以外に出るのが楽しみです。(レインブーツもあればなあ...)

(N)

年のことを言いすぎ！と言われるけれどやはり年！阪急電車の回数券、「土日祝」(めっちゃお得)と「昼間」用、そして普通(これは10回分で11回購入できる)に分かれているが、それをきちんと使いこなしてきた。決してラガールカードなどの世話にはならず、「昼間」は4時がタイムリミット、その制限時間に近づくと駅に向けてダッシュなんてことも。しかし、季節が一巡りして通用期限が過ぎた1回しか使用していない回数券をポケットから見つけること数回。愕然！勿体ない！そこで通用期限なしのラガールカードが安全だと思い至ることとなった。冬は石油ストーブにお世話になるが、灯油を買うのはRホームセンターまで車で。ゆきやこんこん～で購入する先輩の家庭の分も時々応援したりもしてきた。しかし、昨年末からうちもゆきやこんこん～に換えた。門横に灯油缶を出しポストに代金を入れておいたら、ちゃんと玄関先まで運んである。代金を置き忘れても充てんしてくれていた。で、この方法に限る！と方針変更。ま、そんな昨今で。しかし年ですが漢字抜け熟語とかクロスワードは大好き、全問正解に漕ぎつければ、あたし満更ではないでしょう！と大満足。

(J)